教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京科学大学拠点連携校共通
教育プログラム・コース名	連携7校共通：造血器腫瘍専門医養成コース（インテンシブコース）
対象職種・分野	医師（血液内科、小児科）
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	①造血器腫瘍の正確な診断を迅速にできる能力を有する人材 ②造血器腫瘍の予後、治療法の決定に必要なゲノム異常を含めた最先端の検査と技術を活用できる人材 ③造血器腫瘍に対する化学療法、分子標的療法、造血幹細胞移植を含めた細胞療法による集学的な治療が実践できる人材 ④合併症の管理およびサバイバーの適切なフォローアップ管理ができる人材
修了要件・履修方法	所定の講義・実習科目4単位以上を履修し、試験に合格して修了する。
履修科目等	＜必修科目＞ 造血器腫瘍（1単位）＋造血器腫瘍実践実習（2単位） ＜選択科目＞ がん生物学・解剖学・病理学（1単位）、がん化学療法特論（1単位）、臨床腫瘍学（1単位）、腫瘍放射線治療学特論（1単位）、放射線診断学・核医学特論（1単位）、緩和ケア・緩和医療学（1単位）、口腔がん・がん口腔支持療法（1単位）から1単位以上
がんに関する専門資格との連携	血液専門医（日本血液学会）、小児血液・がん専門医（日本小児血液・がん学会）、造血細胞移植認定医（日本造血・免疫細胞療法学会）の研修施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	白血病・悪性リンパ腫を含めた造血器腫瘍は固形がんに比べるとその頻度は低い（最も多い悪性リンパ腫で全がん腫の3-4%程度）。しかし、その治療は殺細胞性治療薬に続き、最も早くから分子標的薬、造血幹細胞移植などが導入され、予後を大幅に改善してる。また遺伝子異常、ゲノム解析の情報も蓄積して、固形がんに遅れているが、その臨床応用が開始されている。本プログラムは診断および予後予測・治療法決定に必要な白血病幹細胞の生理学、遺伝子異常・ゲノム解析、各種診断手法、病理形態学を学内外の専門家から指導し、がん化学療法、分子標的薬、造血幹細胞移植およびCAR-T療法に関して合併症の管理を含めた指導を行う。特に近く導入される遺伝子パネル検査を適切に活用できる能力の習得を目指す。また造血器腫瘍治療に密に関連する放射線治療、緩和医療学、腫瘍循環器病学などの最先端の知識を習得し、診断から治療、その後のフォローアップまで一貫した管理ができる専門医を育成する。可能な範囲で遠隔講義やe-learningを用いることで受講者の利便性に配慮した受講環境を整備する。
指導体制	東京科学大学病院および連携する施設の血液内科および小児科に属する血液専門医・指導医、造血細胞移植認定医が中心となり、病理専門医、臨床検査専門医、放射線治療専門医、がん薬物療法専門医、歯科医師、基礎研究者等と連携して指導にあたる。
修了者の進路・キャリアパス	血液専門医、小児血液・がん専門医、造血細胞移植認定医等の資格を取得し、地域の中核病院やがん拠点病院にて造血器腫瘍の専門的医療を提供できる医療者。造血器腫瘍以外のがん腫に合併する血液異常を適切に診断し、他科専門医と連携して管理できる医療者。
受入開始時期	令和6年4月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	15	15	15	15	15	75

受入目標人数設定の考え方・根拠	連携校全体の過去の造血器腫瘍診療科にに入職する医師が15人以上見込まれるため、受入れ目標人数を15人/年と設定。

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	28					28